

平成29年度全国学力・学習状況調査の公表に係る教育長コメント

平成29年8月28日

本年4月18日に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が、本日、8月28日、公表されました。本年度は、悉皆調査としては8回目、抽出調査を併せると10回目の調査となります。

本県の児童生徒の学力の状況は、調査が始まった平成19年度から全国との比較において改善傾向にあります。今年度も算数・数学は小・中学校とも過去最高と、改善が進んでいます。

一方、国語については小・中学校とも前年を下回り、特に、これまで強みを見せていた小学校のA問題については大きく落とす結果となっています。また、国語、算数・数学とも主に知識を問うA問題に対し、主に思考力・判断力・表現力を問うB問題に弱さが見られる点についてもまだ十分な改善が見られていません。

算数・数学の改善が進んだのは、近年、チーム学校の意識が徐々に醸成され、その基礎に立って関係者が危機感を持って対応してきた成果と思われ。今後とも力をゆるめることなく、チーム学校による組織的な授業改善を中心にさらなる向上を目指してまいります。

国語の落ち込みは、算数・数学に比べ、近年比較的良好な成績が続いていたことから、関係者の課題意識が薄くなっていたことの表れではないかと感じています。

国語においては、特に文章の読解力に弱さが見られますが、このことは他の教科の学力にも影響する大きな課題です。このため、今後、読解力の強化に向けて、重点的な対応を図る必要があると考えています。

これらの課題に対応し、学力向上を図るためには、まずは、各学校が、今回の調査結果をしっかりと受け止め、自校の課題を明らかにした上で、チーム学校による授業改善にPDCAサイクルを回しながら取り組むことが重要です。

県教育委員会としましても「高知県教育大綱」や「第2期高知県教育振興基本計画」に基づく取組を着実に進めるとともに、市町村教育委員会との連携を一層強め、各学校の取組を強力に支援してまいります。

高知県教育長 田村 壮児